

79 会報

響音

発行所 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル5F
TEL 03-6907-2253
FAX 03-6907-2915
発行人 山東 昭子 編集人 櫻井 博
(題字 山東昭子会長)

第四十三回聴覚障害児を育てた

お母さんをたたえる会

お祝いのごとば

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会会長

山東 昭子



今回、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、例年、憲政記念館で行われている「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」の記念式典は、残念ながら開催を見送らせていただきました。しかし、秋篠宮佳子内親王殿下から、お母様方へのあたたかいお言葉を賜りましたことを、大変嬉しく思います。

表彰に当たっては、それぞれのお母様が推薦される経緯を記した書類も読ませていただいております。その文面から、お子様の養育に全身全霊を注ぎ、困難を乗り越えながらお子様を育てていく、厳しくも慈愛に満ちた母の姿がまぶたに浮かびます。立派に成長した我が子とともに、誇りを持って胸をはるお母様の姿の、なんと神々しいことでしょうか。この世に母より尊い存在はありません。受賞されるお母様方、この度の栄誉、誠におめでとうございます！そして一日一日を我が子とともに一生懸命生きていくすべてのお母様方

にエールを送りたいと思います。コロナなんか絶対に負けず、お体を大切に、次回こそ皆でまた元気に集い合ひましょう。

最後となりましたが、文部科学省、厚生労働省、東京都教育委員会、全国聾学校長会、全国ろう学校PTA連合会による御後援に、改めて厚く御礼申し上げますとともに、なお一層の御支援をお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

佳子内親王殿下のおことば



2020.1.27

このたび、「第四十三回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」の表彰を受けられる皆様、心からお祝いを申し上げます。

受賞されるお母様、お父様は、大変なことも嬉しいこともある中で、お子様との信頼関係を大切にされながら、お子様に寄り添ってこられたことでしょうか。お子様が言葉で学ばれる時、お母様、お父様は、試行錯誤を重ねつつたくさん工夫をされたことと思います。また、お子様が希望されることに取り組めるよう支えたり、人生の中での様々な選択と一緒に悩み考えたりと、いろいろなことに心を配ってこられたのではないのでしょうか。

そして、喜びも悲しみも分かち合いながら、ともに歩んでこられたと想像しております。

様々な気持ちを抱きながら、経験を積み重ね成長していく中で、お子様にとって皆様の存在は、とても心強かったと思います。ご家族とともに過ごしたかけがえのない時間と思い出は、これからも、お子様を支え続けることでしょうか。

お子様の幸せを願い育ててこられたお母様、お父様が、このようにして表彰を受けられますことを、たいへん嬉しく思います。ご家族やまわりの方々も、ともに喜んでいらつしやることでしょうか。受賞される皆様の長年にわたるご努力に深く敬意を表しますとともに、改めて、お一人お一人に心からお祝いを申し上げます。

〇〇お父さんの体験発表〇〇

「自分で生きる力を」

愛知県 小島 裕幸

私の娘で次女の未来（みき）は、定期検診で胸水が異常に溜まり、緊急手術で帝王切開にて産まれました。出生体重千六百二十gで生まれつきの難聴でした。退院後検査をした医療機関から、愛知県立岡崎聾学校を紹介され通うことになりました。

未来が二歳の時、妻が病で亡くなり、幼稚部から私が学校まで片道四十分かけ送迎し、その車中で手話にて「しりとり」をし、一緒に授業に参加しました。また、自宅では兄、姉にも手話と指文字を教え、未来とのコミュニケーションがとれるようになりました。

小学部では、高学年から部活動で和太鼓部に所属。各地のイベントや地域での交流会などで披露しました。中学部からは、不安のなかバス通学を始め、卓球、バレー、茶道、アート、和太鼓と部活動に取組みました。手話の上達も早く、この頃には立場が逆転し、私が教えてもらう側になっていきました。



高等部になって、未来に自立をさせたく、寄宿舎での生活を始めました。部活動では陸上部に所属。長距離走が得意なようで千五百m走の選手として頑張りました。と同時に、私は未来にこの先社会人として、周りがどうであろうと自分で生きる力を付けてほしいと思う、病院や歯医者、駅、役場での手帳の申請など、私が後ろで見守りながら一人でさまざまな事にチャレンジさせました。

私自身も未来が高等部三年時に、PTA会長、翌年は西三河聴覚障害児親の会会長を務めさせていただきました。PTA会長時には愛知、三重、岐阜三県の各聾学校の会長、学校長、大学教授が集まり、各々学校状況などの情報交換をしました。先生方、父母さん方の考えや悩み、子ども達への熱い想いを感じました。高等部を卒業後、大手自動車会社の障害者雇用企業に電車通勤しています。主にパソコンでのメール管理と社内便等、配布物のラベルを作成しています。昨年行われた技能五輪全国アピリンピック大会の写真撮影部門で金賞を受賞。今年五月に開催予定の世界技能五輪ロシア大会に出場予定で、未来自身もとても楽しみにしています。

ここまで元気に大きな病気もせず育ってくれた未来ですが、その中で私が体験し感じたのは、様々な障害がある中でも特に難聴児は見た目では分かりづらく、話し掛けても返事がない、会話が成立しないなどで誤解を招き、無下にされるような事がまだまだあることです。今こそ『ヘルプマーク』などがありますが、障害の有無を理解・認知してもらうことは大変困難であると感じています。

未来とは、言葉のかけ違いや生活態度を注意し、喧嘩することもありますが、これからも今まで同様に本人の気持ちを理解、尊重し、ひとり親の責任としてしっかりと見守り支えていきます。最後に、この様な機会をくださった山東会長様は

め関係者様に感謝いたします。

●第四十三回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会受賞者

- 【北海道】 坂東和恵、小笠原幸子、池田睦美、鈴木美紗、姉崎美雪、山谷亜紀子
- 【青森】 水谷万里
- 【岩手】 小田エリ子、林君子、中家うめこ
- 【秋田】 伊藤理香
- 【茨城】 船倉真由美
- 【群馬】 本山喜代子、小林ちよみ、田島恵子、上原朋子
- 【埼玉】 西山美恵子、石関寒千江
- 【千葉】 大竹晴道、広田和美
- 【東京】 原田禎子
- 【神奈川】 今橋幸子
- 【山梨】 須田絵美
- 【福井】 今村日登美
- 【長野】 岩下順子、長張かほる、森山奈津子、長瀬美津恵
- 【静岡】 北島輝子
- 【愛知】 小島裕幸
- 【兵庫】 守山弘子、宮田陽子
- 【岡山】 木下美恵子
- 【徳島】 高橋麻衣
- 【佐賀】 久保慶子
- 【鹿児島】 山田葉子

●第三十二回全国聾学校合奏コンクール審査結果

- 金賞・文部科学大臣賞
 ・東京都立大塚ろう学校 小学部六年 十七名
 「サウンドオブミュージック メドレー」

銀賞

- ・東京都立大塚ろう学校 小学部五年 十七名
 「天使にラブソングを・・・メドレー」

銅賞

- ・東京都立中央ろう学校 高等部 七名
 「サマーウォーズ メドレー」

努力賞

- ・福島県立聴覚支援学校 小学部五・六年 六名
 「ラバーズコンチェルト」
- ・福島県立聴覚支援学校 小学部四年 三名
 「さくらさくら」
- ・福島県立聴覚支援学校会津校 小学部 四名
 「ミッキーマウス マーチ」
- ・京都府立聾学校 中学部 五名
 「打上花火」(米津玄師)
- ・香川県立聾学校 中学部 五名
 「ベートーヴェン・メドレー」
- ・山口県立山口南総合支援学校 中学部 四名
 「パッヘルベルのカノン」
- ・審査員奨励賞
 ・福島県立聴覚支援学校平校 小学部 九名
 「君をのせて」
 ・京都府立聾学校 小学部 十八名
 「うちでおどろう」

全国聾学校合奏コンクール第二次審査総評

審査委員長 尾崎正峰



新型コロナウイルス感染拡大という困難な状況の中にあつて、第一次審査を通過した十一グループすべてが第二次審査にまでこぎ着けたことは何にもまして大きな成果です。また、すべてのグループが第一次審査から演奏レベルを向上させ

ていたことは賞賛に値するものです。第二次審査のための演奏を成し遂げるまでには、いろいろなハードル、それを乗り越える苦労があったと推察されますが、演奏する生徒さんたちの努力はもちろん、指導される先生方、それを支える周囲の方々の営みすべてが重なり合って結晶化したものと受け止めることができます。

名作ミュージカルの各ナンバーのもつキャラクターを描き分け、映画のシーンを彷彿とさせる素晴らしい演奏で金賞・文部科学省大臣賞を獲得した東京都立大塚ろう学校小学部六年グループはもちろんのこと、他のグループも負けず劣らず見事な演奏を披露していました。全体を通して、自分たちらしさを表現しようとする姿勢が伝わってくるものばかりでした。選曲、楽器の選定や編成、さまざまな面で多様な形がありうることを示されていて、それが音楽の持つ力の源泉であることを感じさせました。

演奏の映像から、ひとり一人の生徒さんたちにはまだまだ伸びしろがあることを見て取ることができます。たとえばプロの演奏家などからの専門的なアドバイスを得る機会があれば、より良いものになっていくだろうとの意見が審査員の間で交わされました。

首都圏、大都市圏をはじめ、各地で緊急事態宣言が、再度、発出される中、今後について楽観視することはできませんが、今回は参加がかなわなかった学校も含めて、ともに音楽を奏することで得られるかけがえのないものを思い描きながら、来年度のコンクールに向けて知恵とエネルギーを蓄えておいてください。ひとり一人の個性が輝く素晴らしい演奏に再び出会うことを審査員一同願っています。

全国聾学校合奏コンクール表彰式

第三十二回全国聾学校合奏コンクール表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大のため表彰式としては実施できませんでした。その代わりに、令和三年二月十九日(金)に、東京都立大塚ろう学校に協会が賞状等を直接届け授与式を行いました。



文部科学大臣賞
東京都立大塚ろう学校
小学部6年生

ハマナス募金

当協会が実施しております事業は、公益財団法人JKA競輪公益資金の補助をはじめとして、皆様方からのご寄附(ハマナス募金)により実施しています。皆様方のご理解とご支援に深く感謝いたしております。

今年度も計画事業の適正な実施に努めているところでございますが、昨今の社会情勢から事業資金の確保が大変厳しい状況にあります。つきましては、皆様方より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ハマナス募金のお振込みは、郵便振替もしくは銀行振込にてお願いいたします。

郵便振替口座 00110・9・134877

名義 聴覚障害者教育福祉協会

銀行振込 みずほ銀行江戸川橋支店

普通口座 1615748

名義 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

会長 山東昭子

当協会は、平成二十九年三月三十日内閣府(内閣総理大臣)より税額控除に係る証明を受理しております

令和二年十月一日から令和三年三月末日までの間に、次の皆様方よりご寄附をお寄せいただきました。誠に有難うございました。

(敬称略)

谷口昭子、(株)テアトルアカデミー(浅井健二)、東京ホールディングス(浅井健二)、倉田正雄、石川庄六、辻村哲夫、桑山哲夫、平口洋、斎藤捷彦、新潟県難聴児を持つ親の会、神邊洋吾、川村美津子、小川勝江、浦川絢子、竹ヶ原克哉、藤木裕子、春名英徳、IWD(株)、小俣昌道、谷口昭子、佐藤和子、小川昭子、廣田栄子、谷口昭子、中西千鶴子、青野雅子、佐々木節子、アイエーインベストメント株式会社(浅井健二)、堅田明義、谷口昭子、小林明、谷口昭子、リオン株式会社、谷口昭子、仲田邦男、野崎正史

令和二年度

公益財団法人JKA競輪公益資金による

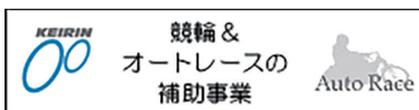
補助事業実施報告

- 一、事業名
令和二年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業
- 二、事業実施内容

F M補聴システムの購入・無償貸与

送信機・受信機二十四セット

全国聾学校・聴覚特別支援学校、小学校、中学校、難聴幼児通園施設に在籍、在園する幼児・児童・生徒の家庭に貸与



トピックス

令和二年度

聴覚障害教育振興奨励賞受賞校について

聴覚障害教育振興奨励会

庶務 鈴木 茂樹

去る一月十六日の聴覚障害教育振興奨励会(会長 四日市 章)の審査会がリモートで開催され、受賞校の二校が決定した。

① 愛知県立一宮聾学校

研究実践報告者 講師 上田 桂子

◎研究テーマ

書ける子を育てる作文指導 ～書くことは、人ともものをつなぐこと～

研究・実践の内容

話せるが、読み取る力、書く力に結び付かず、書くことに苦手意識が強い子供が多い。

話す力を土台にして書く力を育てることに特化した指導として、幼児期、学齢期、青年期における、三つの課題とそれぞれ解決するための三つずつの柱を掲げた。

学校として、絵日記・作文・感想文・諸論文などを各部毎に段階的に指導していく方法と考察などをまとめて表した。

報告は、聾教育に関わった四十五年の経験をまとめたものであり、これからの聾教育を担っていく人たちに「子供は障害に関係なく書ける子になる素質をもつこと」についてバトンを渡したいとの願いを込めたものである。

②筑波大学附属聴覚特別支援学校

研究実践報告者 教諭 久川 浩太郎

◎研究テーマ

理科を中心とした高大連携の意義と効果

～公開講座への参加と研究者招へい講座にお

る十一年間の実践～

研究・実践の内容
二〇〇九年度から大学公開講座の主催者と高等部生徒への配慮について打ち合わせし、引率教員が手話通訳を行って講座に参加した。

二〇一一年度からは大学や研究機関から研究者を学校に招き、同様の配慮を行いながら理科の様々な分野に関する研究者招へい講座を実施した。

すべての講座において、生徒の知的探求心や自主学習意欲、科学技術に対する意識の向上など、研究者招へい講座の有用性を確認できた。

生徒が大学院生や研究者と交流したり、研究室など大学の施設を見学したりすることもできるため、進路意識の醸成につながった。

慶弔

○春の叙勲

前協会専務理事 秋谷義一氏 瑞宝小綬章受章

※ おめでとうございます。

-

お悔み

協会評議員 小俣昌道氏

一月六日ご逝去享年七十六歳

前協会評議員 折山 精氏

一月十二日ご逝去享年九十二歳

前合奏コンクール審査委員長 尾高惇忠氏

二月十六日ご逝去享年七十六歳

※ ご冥福をお祈りするとともに、ここに謹んでご報告申し上げます。

編集後記

会報「響き」七十九号をお届けします。主に令和二年度後半の事業についてお伝えします。

年度の前半で開催する全国聾学校絵画展や全国聾学校作文コンクール、読字力検定試験の第一回目は、新型コロナウイルス感染拡大のために中止とせざるを得ませんでした。

その後の開催である「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」は、多くの人が一堂に会するのは避けられた方がよいということで、式典・発表会を実施せず、表彰楯とリーフレットの寄贈のみ行いました。このリーフレットに掲載した佳子内親王殿下のおことばと山東会長からのお祝いのおことばを、この響き七十九号にも掲載いたしました。全国から三十六名のお母さん方の推薦があり表彰されました。全国聾学校合奏コンクールについては、ほぼ予定通りに審査も進み開催することができました。合奏コンクールの金賞は都立大塚ろう学校が受賞しました。おめでとうございます。

2021年度の協会の事業においては、「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」をはじめとして例年通りの事業を実施する予定です。全国の聾学校、関係機関、関係団体等のご理解ご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。